

●世田谷区政や日本共産党へのご意見をお寄せ下さい。

福祉・くらし優先の 保坂区政の更なる発展へ ～区議団は、与党として力を尽くします！



希望ヶ丘青少年交流センター「アップス」にて今年、区は、船橋にある旧希望ヶ丘中学校の跡地を活用した「希望ヶ丘複合施設」を開設しました。施設には、青少年交流センター、区民集会施設、区立保育園、ほっとスクールが入っています。

希望ヶ丘青少年交流センターは、若者の主体的な活動拠点です。

左から江口区議、たかじょう区議、中里区議

選挙後初の区議会が行われました

基本的人権と平和を守り、区民生活に責任を持つ自治体の役割発揮を！

6月12日～21日まで、第2回定例会が行われました。区議団は代表質問で、保坂区政の今期の政治姿勢を質し、この区政の継続を選択した区民の信託にしっかり応え、その発展を求めました。

区長は『憲法で保障される基本的人権と平和を守るのは区民生活に責任を持つ自治体の責務。…その重責を果たしていく』と、前向きな答弁をしました。

国民健康保険料の子どもが多い世帯の区独自減免実現を

— 区長『総合的な子育て支援策の観点から取り組む』と答弁！

今回の代表質問では、特に子どもが多い世帯の国保料の区独自減免を求めました。

国保には「均等割」という、収入のない赤ちゃんにも、加入者一人あたりにかかる負担があり、今年度は52,200円です。子どもの数が増える程、保険料は高くなり、生活を圧迫します。更に国保料は今後も上がる予定です。

質問では、3人のお子さんを持つ区内自営業の方の切実な実態を示し、『積極的に子育て支援策に取り組んできた当区として、国保会計を超えた独自の負担軽減を！』と迫りました。区長は「総合的な子育て支援策の観点から取り組んで参ります」と、答弁しました。実現に向けての大きな一歩です。

実現すれば、他区や都にも大きな影響をもたらします。引き続き世論を広げ、子育て世帯のみならず、低所得者世帯の減免を実現しましょう。



江口じゅん子

保育園入園の選考基準が変更へー5歳児クラスでも育児時間が取れます！

待機児減少に伴い、これまで保護者要望が大きかった保育園入園に関する選考基準（利用基準指数）が、来年度からいくつか変更になります。主な変更点◆5歳児クラスでも育児時間取得が可能◆自営業者も育児取得により、5点加算等（詳細は区ホームページをご参照ください）。私はこの間、特に5歳児クラスの育児時間返上の改善を求めてきました。引き続き、保育の質を守りながらの待機児解消を求めます。

外環道の情報提供の改善一区の独自対策の実現へ

いま、外環道事業は喜多見・成城の住宅街真下を、2台のシールドマシン（トンネル掘り機）が掘進しています。

この間、住宅に振動被害等が生じています。私は、大深度地下利用の前提が崩れていると指摘するとともに、地域の方々と丁寧な情報提供・説明を求めてきました。区は委員会で、「区有地、例えばまちづくりセンター等の区施設で、区としての情報提供を検討」と答弁しました。



たかじょう訓子

産業振興基本条例の見直しにあたり、中小業者への支援を位置付けよ

中小企業は地域経済の根幹であり社会の主力として地域経済と住民生活に貢献する存在です。私は、産業振興基本条例の見直しにあたり、基本方針で、区内の多様な事業所を位置付ける事、区の責務として個人事業主や小規模事業者への支援を位置付けることを求めました。

区は、区内産業の厳しい状況など「時代の変化に合わせた新たな視点で活性化を図る」と述べ、「区内産業の活性化に繋げられる条例となるよう必要な検討を」行うと答弁しました。

烏山に新たな大型道路はいらない！

都道・補助219号線の事業説明・測量説明会が行われました。説明会では、保育園や公園を潰す整備計画の見直しや、通学路の安全面での不安、説明会開催の不十分な周知が問題となりました。住民合意がない道路計画は見直すべきです。私は、住民の、不安・要望に区はどのように対応するのかを問い、説明会再開を求めました。

区は、「地域の理解と住民合意を大切にしながら取り組む」説明会の再開については「改めて、都へ要望する」と答弁しました。



中里光夫

北沢地域に保育園や地域密着型高齢者施設の整備を

保育園や地域密着型高齢者施設の整備は地域偏在があり、北沢地域が大きく遅れています。保育待機児も北沢地域は深刻な状態です。施設整備のための土地確保の重要性を訴え、代沢せせらぎ公園隣にある郵政宿舎跡地の活用を求めました。区は「公園用地としての取得を進めるが保育所の可能性も追求する」と答弁しました。

保育園などの園外活動の安全確保を

保育園のおさんぼ中の交通事故のニュースに「他人事ではない」の声が広がっています。ガードレールや信号機等の設置、歩車分離、歩道の確保などの対策を進めるべきです。安全確保は保育の質の基本です。区として責任を持って取り組む体制を求めました。区は「保育の質を守る公的責任を果たす体制の構築を検討する」と答弁しました。

環七若林踏切横の横断歩道、青信号の時間延長を実施

環七と世田谷線が交差するところの横断歩道の青信号の時間延長を取り上げました。質問準備の時点で2秒間の延長試行が始まりました。恒久的な対策となるよう求めました。

聞こえのバリアフリー（加齢性の難聴）の解決へ

65歳以上の2人に1人が難聴と言われています。日本共産党都議団のアンケートに「補聴器は高くて買えない」「うまく調整できない」などの声が多数寄せられました。重度難聴でなければ補聴器購入補助が受けられず、購入してもうまく聞こえないという方も少なくありません。第2回定例都議会では、早期からの補聴器使用や、個別に専門家が調整することへの支援を求めました。都は、早期の補聴器使用が効果的であること、個別の調整が重要であることを認めました。購入費補助についてもさらなる拡充を求めました。



里吉ゆみ

くらし・福祉を守る区政の発展を

代表質問をした江口じゅん子区議に聞く



公約実現に全力を尽くします

Q 区議団が3名となるなかでの、初議会での代表質問でしたね。

A 区議選で区議団が後退し、皆様にご心配をおかけしています。今期、区議団は交渉会派でないため、一般質問(10分間)のなかで、代表質問を位置づけ臨みました。

区民は、区長選で保坂区政継続を選択。区政の更なる発展を—

Q 質問ではまず、先の区長・区議選を振り返っていましたね。

A 区民がなぜ、この区政を選択したのか。私たちは3つの理由を述べました。

①特養ホームや保育所増設等区民の切実な要求にこたえ、更に多様性の尊重の立場で、同性パートナーシップ宣誓等先進的対応に踏み出してきたこと②生活保護基準引下げ等安倍政権の社会保障後退から区民生活を守る取り組みを進めてきたこと③財源は安易な区民負担増に頼らず、保育関連経費の様に国から財源を確保したこと等です。

私は質問を書きながら、区民が評価したこの区政は、区民と共にわが党も与党として作り上げたものであることを実感しました。

同時に区政には課題があります。介護保険・国民健康保険等相次ぐ値上げや制度改悪から、区民生活を守る取り組みを推進すること、また図書館・児童館民営化は、公的役割やサービスの後退につながり、進めるべきでないというのが、私たちの立場です。与党だからこそ、譲れないことはしっかり主張し、そして議論・提案を重ねていくことを述べました。

今期の区政の重要課題—①行革について

Q 具体的な個別課題では、何を質問したのでしょうか。

A 具体的には、今後の区政の重要課題である①行革問題、②都市計画道路③国保の独自減免について、質問しました。特に、行革と都市計画道路問題は、先の選挙の最大争点でした。

行革問題では、今後の施設使用料値上げの際の大本の指針の見直し(適正な利用者負担の導入指針)や区民会館等公共施設の運営を民間に委ねる際のガイドライン制定(指

定管理者制度運用のガイドライン)について質問しました。

区は施設使用料の指針見直しにおいて、施設使用料に減価償却費(建物の建設費)を含める考えを示しています。区議団は、利用料値上げにつながり、「区民理解は得られない」と述べました。区は、「区民へ過度な負担とならないように、しっかりと検証する…」と認識を示しました。また民間活用に対しての区の基本的姿勢を質しました。区は「区が直接行うべき役割はしっかりと担いながら…、事業者によるサービスの質を確保する…」と答弁しました。

今期の区政の重要課題

—②都市計画道路について

Q いま、区内各地で大型道路に対する運動が広がっています。

A 私の活動地域の経堂～成城では、都道52号線という大型道路計画への反対世論が高まっています。区もこの間の答弁で「事業中・優先整備路線・環八以西においても、事業反対の声が区にも要望書として寄せられている」と認めています。

私はこの世論の広がりを示し、保坂区政として都市計画道路に対しても、「参加と協働」を貫くことを求めました。副区長は「…住民合意・理解・協働を軸に、…区として更に何ができるのか、…住民の方々の声を伺う機会を大切にし、…対応していく」と、区民生活に寄り添った答弁をしました。

Q これまでの道路関係の答弁とは異なりますね。

A 従来は『都市計画道路計画は決まったものであり、これを進めて行く』と紋切り型の答弁でした。しかし、選挙結果や区民の運動と区議団の議論が、区の対応を変化させています。引き続き、世論を高めていきます。

私たちの1票が政治を変える!

共同の力を大切に、今後も全力でがんばります。

Q 今議会では日本共産党を含む超党派が共同提案した、「原発ゼロ社会の実現を求める意見書」が可決されたこと聞きました。

A 自民・公明が過半数を割り込む中で、議会の変化を実感します。この議会で得た成果と確信を、地域の皆さんに伝え、今後も共同を大切に奮闘して参ります。

臨時議会、第2回定例会で意見書を提出

『原発ゼロ社会の実現を求める意見書』が賛成多数で採択！

5月の第1回臨時議会で、「日本政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求める意見書」を日本共産党を含む超党派で共同提案し、結果、賛成23、反対26で否決となりました。反対は、自民、公明、Setagaya あらた、維新でした。

その後、第2回定例会でも、「原発ゼロ社会の実現を求める意見書」を共同提案しました。結果は、賛成26、反対23で可決され、政府と国会へ提出されました。反対は、自民、公明、減税せたがや、無所属でした。

区議会の意見書は、議会総意としての意見を国の施策に反映させるためのものです。今後も、超党派での議論・提出を進めていきます。

			くりはら博之 (区守会)	上川あや (虹)	ひうち優子 (世田谷)	青空こうじ (無所属)	そのべせいや (都ファ)				神尾りさ (あらた)	つるみけんご (あらた)
穴戸三郎 (自民)	河野俊弘 (自民)	石川ナオミ (自民)	空席		田中みち子 (生ネ)	金井えり子 (生ネ)	高岡じゅん子 (生ネ)	あべか也 (減税)			小泉たま子 (あらた)	佐藤美樹 (あらた)
真鍋よしゆき (自民)	山口ひろひさ (自民)	畠山晋一 (自民)	たかじょう訓子 (共産)	江口じゅん子 (共産)	中里光夫 (共産)	中山みずほ (立民社)	いそだく美子 (立民社)			河村みどり (公明)	福田たえ美 (公明)	津上仁志 (公明)
菅沼つとむ (自民)	加藤たいき (自民)	阿久津皇 (自民)	ひえしま進 (F行革)	桃野芳文 (F行革)	藤井まな (立民社)	中村公太郎 (立民社)	桜井純子 (立民社)			平塚敬二 (公明)	高久則男 (公明)	高橋昭彦 (公明)
上島よしもり (自民)	おぎのけんじ (自民)	下山芳男 (自民)	田中優子 (F行革)	大庭正明 (F行革)	中塚さちよ (立民社)	風間ゆたか (立民社)	羽田圭二 (立民社)			岡本のふ子 (公明)	佐藤弘人 (公明)	板井齋 (公明)

「原発ゼロ社会の実現を求める意見書」への賛否（本会議場の議席）

賛成 反対

新議会の会派構成

- ①自由民主党世田谷区議団（自民）（13人）
- ②公明党世田谷区議団（公明）（9人）
- ③世田谷立憲民主党社民党（立民社）（8人）
- ④無所属・世田谷行革 110番・維新（F行革）（4人）
- ⑤Setagaya あらた（あらた）（4人）
- ⑥日本共産党世田谷区議団（共産）（3人）
- ⑦生活者ネットワーク世田谷区議団（生ネ）（3人）
- ⑧減税せたがや（減税）（1人）
- ⑨レインボー世田谷（虹）（1人）
- ⑩世田谷無所属（世田谷）（1人）
- ⑪都民ファーストの会（都ファ）（1人）
- ⑫区民を守る会（区守会）（1人）
※「NHKから国民を守る党」が5/25に会派名を変更
- ⑬無所属（1人）

新たな議会の役割

- 議長：和田ひでとし（自民）
- 副議長：高橋昭彦（公明）

日本共産党区議団の役割

団長幹事長：中里光夫
政調会長：江口じゅん子
会計：たかじょう訓子

常任委員会

区民生活：たかじょう訓子
福祉保健：江口じゅん子
都市整備：中里光夫
企画総務、文教は空白

特別委員会

地方分権庁舎整備対策等：中里光夫
災害・防犯・オウム問題対策：たかじょう訓子
公共交通機関対策等：江口じゅん子
オリンピック・パラリンピック等：空白

附属機関

都市計画審議会委員：たかじょう訓子
土地開発公社評議委員：（後半2年）

医療的ケア児と家族のための ショートステイ施設「もみじの家」を視察

国立成育医療センター内にある、医療的ケア児のショートステイと終末期緩和ケアを行う医療型短期入所施設「もみじの家」を視察しました。医療的ケア児が増えこうした施設の必要性が高まっています。医療的ケア児とご家族の切実な願いを区政に伝えていきます。

